

平成14年度小学校ジョイフル英語学習実践事例

小学校名	岐阜地区	対象学年	高学年	実施時期	2 学期
題 材 名	One Word Skit				
主な表現 補助資料	<ul style="list-style-type: none"> ・スキット作成に役立ちそうな感情を表現する場面絵（既習のものを10程度） ・語彙：Good, Lucky, Fantastic, Joking, Scary, No problem, Cool, Ouch, Wow, What? etc. ・スキットに活用できそうな小道具等 				
本時の 目 標	既習の単語や表現等を活用して、ペアで即興スキットを作ることや相互のスキットを見たり聞いたりして楽しむことができる。				
学 習 活 動		教師の指導・援助		留 意 点	
<p>挨拶 Country Road クイズタイム "One Word Guess What?" 毎時間、2名の児童が、出題者(S)となり、ブラックボックスに「当てられるもの」を準備する。</p> <p>S: Guess what! A1: Food? S: No. A2: Color? S: Red. A3: Long? S: Yes. A4: Stationary? S: Yes. A5: I know. It's a red pencil. S: Right!</p>		<p>H&A: 心をこめて挨拶する。I'm fine, thank you. It's a good day! You do not look fine. Are you all right? H: 出題する児童の立場で、質問に対して行き詰まったときに、英語を引き出したたり、適切な単語や表現を示唆したりする。 J: 質問して答える児童の立場で、質問が行き詰まったり、質問の意図が伝わりにくかったりしたときに、適切な表現等を示唆する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・形式的に挨拶を行うのではなく、挨拶で心を通わせたり、会話が広がるようなぎっかけづくりとする。 ・できる限り英語だけでQ-Aをするように促す。英語がわからないときは、近い意味で言い換えたり外来語等を活用すればよいことを具体例で示す。 ・普段から感情を表現する語彙を教室英語として活用することで、多様な語彙に触れさせておく。 ・小道具として、スポーツ用具、雑貨、その他、教室のもの等を使ってよいこととする。 ・児童にとって活動の目標が評価の観点になる。 《評価の観点》 ・英語でのスキット ・構成：起承転結 ・内容：タイトルとの整合 ・その他、既習表現やカタカナ英語等を活用することで、多様な表現ができることを児童の表現に基づき具体例を示し、英語で表現することの楽しさを味わわせる。 ・次の時間には、本時で発表できなかったペアが発表していくこととする。 	
Let's enjoy one word skit!					
<ul style="list-style-type: none"> ・HRT、JTEがスキットを行い、児童は見たり聞いたりして楽しむとともに、目指す姿を理解する。 <p>「TOPIC: Good luck, Bad luck」 HRT(釣り人): Wow, A big fish. JTE(釣られた魚): Ouch! HRT: Fantastic! But heavy. (糸の切れる音) Oh, no! JTE: Lucky, bye, bye. HRT: Bad luck.</p>					
<p>課題を把握して、ペアで準備された小道具を活用しながら、即興でスキットを創り出す。</p> <p>S1: Let's play baseball. S2: Ok, but I'm not a good player. S1: Here you go. S2: Ok. S1: Strike one, Strike two. S2: Oh, no. S1: This is the last. S2: Ok. ... Home run. S1: Oh, no. S2: Lucky.</p> <p>中間交流：班内でスキットを交流し「英語の活用」「構成」「内容」の点から互いにアドバイスをする。アドバイスを取り入れ、スキットを再構成する。</p> <p>代表の数ペアが発表をする。《評価》 *発表者は、構成、内容で工夫した点を述べる。 *見た児童は、自分たちとの違いや発想のよさ、内容の興味深さを述べる。</p>		<p>H: 活動の目標を伝える。すなわち、スキットづくりの際の目標として、「英語だけで行うこと、構成を起承転結とすること、タイトルを付けること」等とすることで、よりよい内容となることを理解させる。 J&H: 分担して、個々へのつまずきに対応する。 J: 英語で表現することに対して困難がある場合は、英語で表現しきれない部分について、表情や仕草等を活用できることを示唆する。 H: ストーリーを展開することによって、困難がある場合は、小道具を使用することによって、ストーリーのヒントになることや発展させたりすることができたりすることを示唆する。 H: 先に示した目標について児童の活動やスキットの達成度を認め励ます。《評価》</p>			